

2021 年 6 月市議会報告

市民のみなさま、いつも変わらない暖かいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

6月議会には、競馬場跡地開発の中核と位置付ける「道の駅」の建設計画をスタートさせるための条例案が提出されました。この条例案が承認されれば、道の駅と関連施設の建設計画等が着手され、後戻りできない事態となるため、本議会の最重要議案として一般質問で取り上げ集中して質問しました。また福岡高裁が有明海再生へ向けて、訴訟当事者へ和解協議を提案したことについて、執行部の受け止めなどを質問しました。

日本共産党市議会議員

北園
としみつ

Kitazono Toshimitsu です



ほとんどの市民に知らされることなく

「道の駅」建設をスタートさせる 条例案にただ一人反対しました



「荒尾市ウェルネス拠点施設（仮称）PFI 事業等審査委員会 条例について」という議案が採択されました。

「道の駅あらお（仮称）」と「荒尾市保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」とをいっしょにPFI手法で整備するとし、委員会を10人以内で設置し、今後この委員会が事業者選定など本格的に建設へ向けて計画を推進していくことになります。

ほとんどの市民に道の駅などの建設計画が十分に知らされていない状況での採決の強行に、私は反対しました。

市民の皆さんから、たくさんの疑問の声が出されています。急がずに、今からでも、市民説明会を開催し、市民の理解と納得を得て進めるべきではありませんか

アジアパークの失敗を 繰り返すのではないか

荒尾市は 44 億円をかけアジアパークを破綻させた苦い経験があります。16億円を超える「道の駅」建設は、大丈夫なのか市民の不安が広がったままです。



なぜ、急いで進めるのか 何のための道の駅なのか

道の駅の基本計画を読まれた市民の方から、「読んで感動しない。施設建設の計画と集客の計画、事業手法の説明ばかりで、何のためにするのかよく理解できない。」という声が寄せられています。

計画では、事業や運営をすべて民間事業者者に任せるPFI方式で進める計画です。なぜ、行政と地元の農漁業者などがしっかりとスクラムを組み、自分たちの創意で計画し、運営していけないのでしょうか。

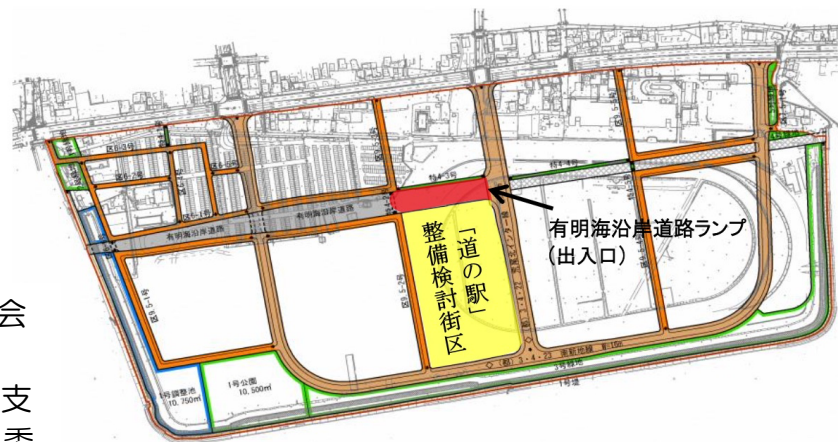
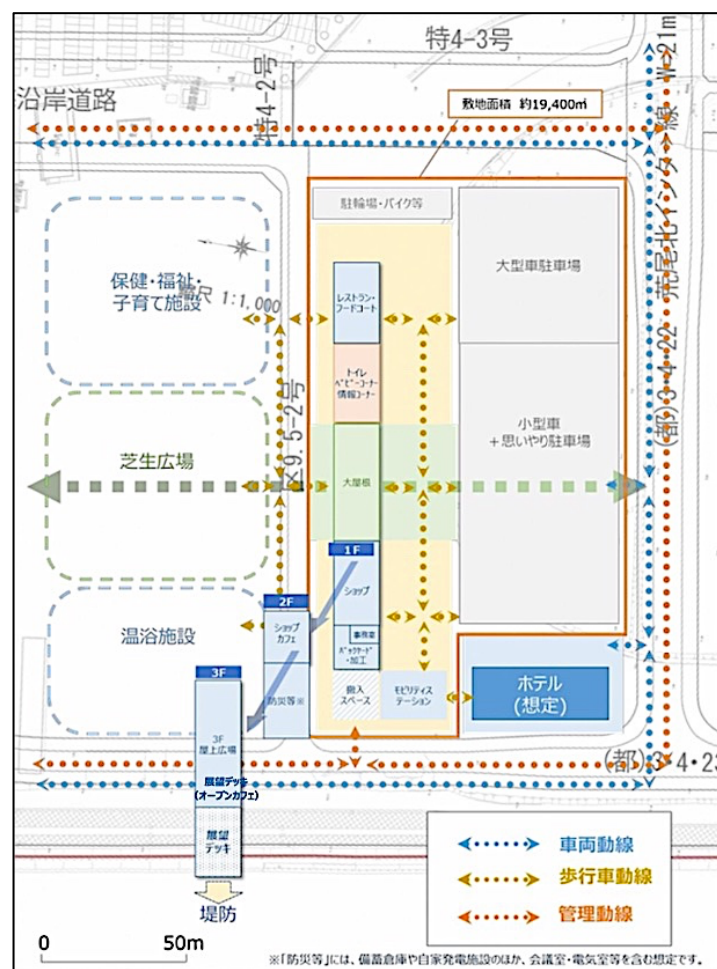


図 2-1 南新地地区全体図及び「道の駅」整備検討街区



「道の駅あらお」平面イメージ図

条例議決により工事完成に向けて計画に 着手、12月議会へ予算提案を計画

「荒尾市ウェルネス拠点施設（仮称）PFI 事業等審査委員会条例」が議決された①ことにより、右図の建設計画（案）に沿って、今後この委員会で計画を審議していくことになります。今年の 12 月議会に②の建設費等の事業費の予算が提案され、議決されれば翌年 12 月の議会で、③事業契約を議決、その後基本設計などに入り、令和 7 年 12 月に工事が完成する計画です。今回の条例議決により、工事完成までのペースが敷かれたことになります。

「道の駅あらお（仮称）」「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」 建設計画（案）

——マスタースケジュール（案）より——

①R3/6 議会で
委員選定・委員
会設置条例等の
制定を議決

②R3/12 議会で
建設費等事業費
の債務負担行為
予算を議決

③R3/12 議会で
事業契約を議決

→R5/1
基本設計
→R5/7
実施設計
→R6/7
工事開始
→R7/12
工事完成

第 1 回
審査委員会
要求水準書案
に関する審議等

第 2 回
審査委員会
審査基準等
に関する審議等

第 3 回
審査委員会
審査の進め方
に関する審議等

第 4 回
審査委員会
提案書審査/最優
秀提案の選定

全国モデル「道の駅」選定、愛媛県内子町「フレッシュパークからり」のような住民手作りの「道の駅」をめざすべきではないでしょうか

「道の駅あらお(仮称)」の計画が、そのまま進められてうまくいくのか、たいへん不安です。

私が議員になり、最初に視察した道の駅が「フレッシュパークからり」でした。「道の駅あらお(仮称)」と比較しました。

	フレッシュパークからり	道の駅あらお(仮称)
住民との合意形成	1986 知的農村塾スタート(講演・討論会 122 回)、集落座談会(述べ 50 回)、フルーパーク構想論議	市民説明会をまったく開催せず計画を推進
実証事業	・1994/7～1996/3、本格開業前に「内の子市場」を運営 ・H8/5「からり直売所」オープン ・H9/6 レストラン開設 ・H10/3 パン・燻製施設開設 ・H20/4 農畜産処理加工施設開設、実証事業を踏まえて事業を積み重ね安定経営へ	実証事業もまったく行わず、最初から全面開業を計画 総事業費 16.4 億円 70 席のレストラン、100 席のフードコート、2 億円の大屋根、カフェ 2 箇所等々
利用客数と売上高	利用客は開設初年度 10 万人余から 16 年かけて 70 万人を超え、売上は同じく 1 億円から 7 億円に増加	開設当初から物販施設への利用者年間 37 万人(1 日 1000 人)、物販売上 4 億 8100 万円を予測
運 営	・町が主体となり、農協、商工会、町民などが出資して住民参加型で運営 ・地元農家の女性たちが中心となり、新たに 58 名の雇用を創出 ・運営も生産者自らが手作りで商品開発、品質管理、イベント企画まで実施。特に商品開発は女性で構成される複数のチームで独自商品を開発するなど、女性主役の運営も特長。出荷農家は当初から約 2 倍(176 人から約 400 人に)	事業コストの削減、財政負担の縮減が期待できるとして、設計・建設・維持管理・運営を一体的に民間事業者へ委ねる PFI 方式によって運営する計画 (このような PFI 事業について、会計検査院が問題点を指摘しています。↓)

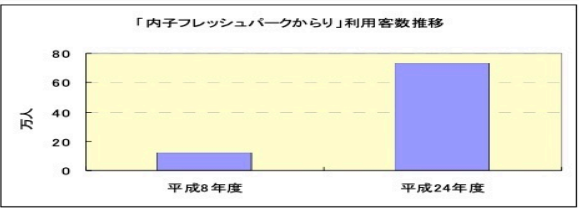
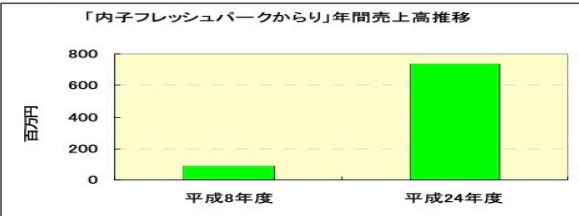


道の駅の企画・運営を支える生産者チーム
フレッシュパークからり

地場産品を「からりブランド」商品として販売



16年間で利用者は6倍、販売額は8倍に増加



会計検査院が PFI 事業を厳しく指摘！(本年 5 月)

PFI 方式を採用した 11 府省の 76 事業について会計検査院が調査し、平成 30 年度末時点において維持管理・運営業務が開始されていたサービス購入型 57 事業のうち、26 事業について債務不履行が計 2367 件発生。また平成 30 年度末までに終了したサービス購入型の 29 事業について PFI の導入効果について事後検証をした事業はなく、うち 27 事業について、PFI と従来方式(自治体独自)での維持管理を比べたところ、全事業で PFI が従来方式より 1.06 倍～2.85 倍高額となりました。

PFI ありきの「道の駅」計画は再検討すべきです

平成 30 年度末までに債務不履行が 2,367 件発生(単位: 事業、件)

	債務不履行が発生してなかったもの	債務不履行が発生していたもの	年間平均発生件数		
			1 件未満	1 件以上 10 件未満	10 件以上
事業数(構成比)	31	26 (100%)	17 (65.3%)	2 (7.6%)	7 (26.9%)
債務不履行の発生件数(構成費)	-	2,367 (100%)	42 (1.7%)	61 (2.5%)	2,264 (95.6%)

意見書の内容について執行部は支持する対応でしたが、議会は反対が過半数に、同じ請願を上天草市議会は全会一致で採択しましたが、荒尾市議会は反対が過半数となりました。

080-7983-3100
お問い合わせ、生活相談など、お気軽にお電話ください

意見書と請願の採決結果

賛成少数でいずれも不採択になりました。

	名称	内容	賛成議員
意見書	有明海再生の根源的な解決を図るために、国が福岡高裁による和解協議の提案を受け入れるよう求める意見書	不漁が続く有明海の再生のため、諫早湾潮受堤防の開門調査をめぐる訴訟が相次ぐ中、福岡高裁が問題の根源的解決を図るために当事者双方へ求めた和解協議の提案を、国に対し受け入れるよう求めるもの	北園敏光(日本共産党)、田中浩治・谷口繁治・坂東俊子・木村誠一(新社会党)、野田ゆみ(瑠璃の会)、鶴田賢了(舞鶴の会)
請 願	新型コロナ禍によるコメ危機の改善を求める請願	コロナ禍での主食用米の民間在庫の急増による販売単価の暴落を防ぐため、滞在在庫の政府買取りや生活困窮者等への食料支援制度の創設と活用、輸入数量制限などを求めるもの	北園敏光(日本共産党・紹介議員)田中浩治・谷口繁治・坂東俊子・木村誠一(新社会党)

※賛成議員以外の議員は全員反対しました。